

山鉾の修繕

山鉾行事が現在の形で継承されるようになってほぼ 800 年。その歳月を有形の山鉾が建造当時のまま保存・承継されてきたわけではない。毎年 of 巡行で壊れ消耗して絶えず修理・修繕がなされ、多くは何度も戦火・大火で消滅し復元・復興された。

それは現在も続いている。最近 10 年間の状況を一覧の形でまとめた。新聞報道からの採集であるから検索漏れはあろうし、記事に至らない中小の修理修繕は当然抜けている。保存努力の実態や費用の大略を把握するための資料である。(本文の後に掲載)

まず一覧して気づくのはこの表に登場している山鉾が全 32 基のうち 23 基にとどまることである。しかも、同じ山鉾が複数回登場している。その理由は次のように解釈できる。

1. 大修理は 200 年～300 年の期間をおいて行われるから一旦終了するとしばらくはない。函谷鉾の胴前懸けを約 350 年ぶりに復元した同鉾保存会御池吉三理事の「新しいのに伝統的な色合いを感じる立派なものに仕上がった。また 300 年以上使えるように大事に扱いたい」という談話、保昌山の(背面に懸ける)見送りを 205 年ぶりに復元し、懸装品 9 点の修理・新調を 15 年掛かりで終えた同保存会出島昭男理事長の「できあがって肩の荷が下りた。200 年、300 年先まで残せるよう大事に扱いたい」という談話にそれがよく示されている。
2. 大修理には手間も費用も掛かるから同種の懸装品も一度に修理できるとは限らない。鈴鹿山は 2000 年に左胴懸け(桜図)を、2002 年に右胴懸け(紅葉図)を新調した。長刀鉾は 2009 年に南面の下水引(胴懸けの上縁を飾る)を 254 年ぶりに新調したが、87 年(東面)、06 年(西面)、07 年(北面)と 6 年がかりであった。黒主山の見送りは 2004 年、2007 年に復元新調されている。これは同山保存会大田正樹理事長の 2007 年の談話「3 年前にもう一つの見送りを復元新調しており、これで昔通り隔年で交互に使えます」で理解できる。

大修理は年に数件しか行われていない。多額の費用が必要で各鉾町で総てを負担することは到底できないから国指定文化財に適用される国庫補助事業費や京都府・市の文化財保護事業からの支援が必要である。当然、各鉾町の要望通りには運ばない。祇園祭山鉾連合会で調整し、選別して申請し、審査を受ける。限りある予算を有効に配分するために公民双方の配慮と努力が必要である。

鉾胴体の前後左右を飾る胴懸け製作費は 1 面 2000 万円前後である。たとえば、2006 年に復元新調された函谷鉾の前懸け(縦約 2.7 m、横約 2.2 m)は、もとの 16 世紀末にベルギーで作られたゴブラン織(国重文指定)と同じ図柄を復元した。旧約聖書に登場するアブラハムの老僕がアブラハムの息子イサクの妻になる女性に水をもらう場面を龍村美術織物が 2 年がかりで織り上げた。この費用のうち函谷鉾町の負担分は、記事から判明している黒主山(約 20%)、保昌山(約 20%)、霰天神山(約 30%)の事例から推して 500 万円前後であろう。函谷鉾は 2002 年に後懸け、2003 年に前懸け(別意匠、住江織物)、2004 年に右胴懸けと復元を続けているから町の負担は並大抵ではない。

山鉾町の苦労は費用だけではない。修繕か修復か、復元か新調か、復元ならどの程度可能か、新調なら図柄はどうするか、過去と将来を見据えた判断が求められる。

2002 年の芦刈山は見送りのご神体人形の修復に留めた。傷みが小規模だったからか予算の問題か、詳細は分からない。それでも江戸時代後期の作で池の縁で遊ぶ童たちの姿を生き生きと描いた見送りの 100 箇所近くあった欠損部分に、新しく織った布をはめ込んだり和紙で補強したり川島織物が技術の粋をつくして修復したのであった。

復元は大多数を占めるが、その詳細はそれぞれに異なる。2003 年の鶏鉾の見送り復元は、16 世紀後半にベルギーで織られたタペストリーの一部(国重文指定)とみられる「王子が妻子に別れを告げるトロイア戦争物語の一場面」を、激しい色あせや傷みを超えて再現した。2011 年の月鉾左胴懸けのオリジナルは 18 世紀中頃の作とされる祇園祭では唯一のトルコ絨毯で、復元新調の依頼を受けたオリエンタルカーペットが製法・素材・色彩などを調査し、織り方を半年以上かけて

研究し型紙をとり、熟練職人が手織りで仕上げた。2011年の橋弁慶山の右胴懸けは、円山応挙が下絵を描いたと伝えられる文化6年(1809)年製の「加茂葵祭行列図」だが、長年の使用で変色が目立っていた。同保存会垣見秀彦理事長が「元こんな色だったのかと感激した」という復元ぶりで新調された。

新調もいろいろである。2010年の孟宗山左右胴懸けは、同保存会が平山郁夫に依頼して制作された「砂漠らくだ行」で、左右を「日」と「月」に分け人類繁栄の願いを込めてシルクロードの隊商を表現したもの。川島織物の綴れ織りが仕上がって「平山さんにこの胴懸けを飾った孟宗山の巡行を見ていただけないのが残念」と佐藤征司同会長は半年前に亡くなった平山画伯を偲んだ。孟宗山のように現代作家に制作を依頼したのは2000年と2002年の鈴鹿山(今井俊満)、2001年の南観音山(加山又造)、2003年の霰天神山(上村惇之)、2008年の南観音山(木村正之)である。霰天神山は、もう一方の「金鶏白梅図」が亡くなった上村松篁の作品なので、今回の「銀鶏紅白梅図」を松篁長男の惇之に依頼したという。

故人の作品を使用したのは2002年の油天神山、2008年の淨妙山、2011年の放下鉾である。油天神山の左右胴懸けには、前田青邨の「紅白梅」が採用されたが、この絵はローマの日本文化会館所蔵で職人たちが色合わせに現地に出向いて原画を綴れ織りに再現したという。淨妙山の前懸けは長谷川久蔵の「桜図」、後懸けは長谷川等伯の「楓図」で、いずれも智積院所蔵の障壁画(国宝)である。淨妙山の84年～85年新調の左右胴懸けも等伯の絵で「(4面すべて長谷川派で揃えたので)是非多くの人に見て欲しい」と同山保存会の高谷皎二理事長は語った。放下鉾の天井幕下絵に採用された柴田是真は京都で修行し幕末から明治期に活躍した画家である。

この一覧に掲げた総てについて述べる必要は無かろう。ここに挙げた事例だけでも町衆の関与は十分に把握できる。各町の責任者に共通するのは、山鉾継承の一時期を担っているという自覚と、受け継いだものを最高の状態で引き継ぎたいという強固な意志である。修理修復の方向はばらばらだが、もともと成り立ちからして山鉾は各町が趣向を凝らして作り上げたのだから、復元・新調もその趣味や教養を承継して当然である。時代を経れば旧作同様に重要文化財に指定される可能性もある一級のものに仕上げたいという意欲だけは一致している。

この一覧表は懸装品がほとんどだが、それは新聞記事からの検索の限界を示すものでもある。懸装品は報道しやすい(言い換えれば絵になる＝写真になる)修復だが、記事になりにくい山鉾の躯体や足回り、その他の付属品といった地味な修理修復も当然行われている。それらは周期も短いだけに網羅的に明らかにできれば長大なリストになるだろう。その一部がこの一覧表にも僅かながら載っている。

2000年の長刀鉾の車軸、2011年の函谷鉾の鋳屋根、同年長刀鉾の鉾頭などである。長刀鉾の車軸はまだ取替え後58年しか経っていなかったが中心部のひび割れがひどくて新調された。材料には直径85cmの赤檜が使われた。表に出ない舞台裏の修復にも町衆の意欲を示す一級品指向が示されている。

以下に一覧表を掲示する。

2000年以降の主な山鉾修理・修復一覧 朝日新聞記事より検索

| 年月 | 山鉾名 | 修理箇所 | 表題・作者・詳細 | 施工 | 状態 | 総費用 判明分 | 町負担 判明分 |
|-----------|------|-----------|--------------|--------|------|------------|------------|
| 2000 6 | 鈴鹿山 | 胴掛け 左 | 桜図 今井俊満 | | 新調 | 1100万円 | |
| | 長刀鉾 | 天井幕 | | | 復元新調 | | |
| | 長刀鉾 | 軒裏板絵 | 江戸後期 松村景文 | | 修復 | | |
| | 長刀鉾 | 車軸 | 赤檜 | | 新調 | | |
| | 黒主山 | 後掛け | 飛竜文様 | | 新調 | 1370万円 | 270万円 |
| 2001 6 | 南観音山 | 水引4面 | 天女図 加山又造 | | 新調 | | |
| | 占出山 | 見送り | 孔雀羽使用 | | 復元新調 | 3000万円 | |
| 2002 6 | 木賊山 | 胴掛け 左右 | 飲中八歌仙 | | 復元新調 | 4000万円 | |
| | 油天神山 | 胴掛け 左右 | 紅白梅 前田青邨 | | 新調 | 3000万円 | |
| | 函谷鉾 | 後掛け | 星型草花文様 | | 復元新調 | 300万円* | * |
| | 鈴鹿山 | 胴掛け 右 | 紅葉図 今井俊満 | | 新調 | 1000万円 | |
| | 鈴鹿山 | 町有収蔵庫 | | | 建替え | | |
| | 芦刈山 | 見送り | | 川島織物 | 修復 | | |
| | 芦刈山 | ご神体翁人形 | | | 修復 | | |
| | 端郷山 | 収蔵庫 | | | 借り上げ | | |
| 2003 6 | 函谷鉾 | 前掛け | 中東連花葉文様 | 住江織物 | 復元新調 | 630万円* | * |
| | 保昌山 | 見送り | 福祿寿星図再現 | | 復元新調 | 3150万円 | 650万円 |
| | 鶏鉾 | 見送り | トロイ戦争場面 | | 復元新調 | 3000万円 | |
| | 太子山 | 見送り | 金色昇竜 | | 復元新調 | 1500万円 | |
| | 霰天神山 | 胴掛け 片方 | 銀鶏紅白梅図 上村惇之 | | 新調 | 1300万円 | 400万円 |
| 2004 6 | 函谷鉾 | 胴掛け 右 | 花・虎 羊毛絨毯 | | 復元新調 | 700万円* | * |
| | 黒主山 | 見送り | 牡丹鳳凰文 | | 復元新調 | 2700万円 | |
| 2005 3 | 長刀鉾 | 見送り | 雲竜波頭文様 | | 復元新調 | 2500万円 | |
| | 鶏鉾 | 前後・胴掛け | ペルシャ・インド模様 | | 復元新調 | 2500万円 | |
| 2006 6 | 北観音山 | 水引 二番・三番 | | | 新調 | 3000万円 | |
| | 函谷鉾 | 前掛け | 旧約聖書創世記場面 | 龍村美術織物 | 復元新調 | 2000万円 | |
| 2007 6 | 黒主山 | 見送り | 紅地唐子嬉遊図 | 龍村美術織物 | 復元新調 | 2700万円 | |
| 2008 6 | 浄妙山 | 前掛け・後掛け | 桜図、楓図 | 川島織物 | 復元新調 | 3000万円 | |
| | 南観音山 | 天水引 4面 | 神獣刺繍 木村正之 | | 復元新調 | 4800万円 | |
| 2009 6 | 長刀鉾 | 下水引 右 | | | 新調 | 1500万円 | |
| | 伯牙山 | 後掛け | 昇り竜下り竜 | 龍村美術織物 | 復元新調 | | |
| | 白樂天山 | 台車サスペンション | | | 新設 | | |
| 2010 6 | 孟宗山 | 胴掛け 左右 | 砂漠らくだ行 平山郁夫 | | 新調 | 2600万円 | |
| | 船鉾 | 水引紋幕 | | | 復元新調 | | |
| | 霰天神山 | 前掛け 後掛け | ベルギータペストリー復元 | 川島織物 | 復元新調 | | |

| | | | | | | | |
|------|----------|-------------|------------|--------|------|-------|--|
| 7 | 鯉山 | 前額水引 左 右 | 果実花金系刺繍 | 川島織物 | 復元新調 | 630万円 | |
| 7 | 四条傘 鉾 | 欄縁鍔り金具 | | | 新調 | 650万円 | |
| 2011 | 橋弁慶 山 | 胴掛け 右 | 加茂葵祭行列図 | | 復元新調 | | |
| 6 | 放下鉾 | 天井幕 | 四季草花図 柴田是真 | | 新調 | | |
| 6 | 南観音 山 | 後掛け | 真珠織 | | 復元新調 | | |
| 6 | 月鉾 | 胴掛け 左 | インド絨毯 | | 復元新調 | | |
| 7 | 函谷鉾 | 鍔屋根 | | | 修復 | 300万円 | |
| 7 | 船鉾 | 神功皇后衣装 | | | 新調 | | |
| 7 | 長刀鉾 | 鉾頭 | | | 修理 | | |
| 11 | 月鉾 | 胴掛け 右 | トルコ絨毯 | オリエンタル | 復元新調 | | |

印は、他との比較から町負担分の金額ではないかと考えられる